

## 第2回次期総合振興計画（区の将来像）に係る緑区検討懇話会 議事要旨

**開催日時**：2019年1月22日（火）10:00～11:30

**開催会場**：さいたま市緑区役所3階大会議室

### 出席者（懇話会委員）：

さいたま市緑区歴史の会 幹事	石田 教治 氏
美園地区自治会連合会 会長	大熊 博 氏
緑区商店会連合会 副会長	奥田 敏明 氏
リサイクル女性会議（緑）代表	笠置 和子 氏
見沼市民フォーラム 会長	菊池 元希 氏
緑区シニアクラブ 副会長	佐々木 佑 氏
原山地区自治会連合会 会長	篠原 千恵子 氏
尾間木地区自治会連合会 会長	鈴木 甫 氏（座長）
青少年育成さいたま市民会議緑区連絡会 代表	田口 邦雄 氏（職務代理）
尾間木地区社会福祉協議会 理事	利根澤 晃子 氏
緑区子ども文化推進連絡会 副会長	沼倉 ノリ子 氏
花いっぱい運動推進会 緑区支部 支部長	花岡 能理雄 氏
さいたま市PTA協議会緑区連合会 監事	星野 祥太 氏
三室地区自治会連合会 会長	星野 孝男 氏

### （事務局：さいたま市）：6名

緑区役所：並木区長 / 阿部副区長 / 曾根区民生活部長 / 池田健康福祉部長  
/ 加藤総務課長  
都市経営戦略部：中村副参事

### 欠席者（懇話会委員）：

見沼田んぼ保全市民連絡会 理事	小林 節子 氏
緑区民生委員児童委員協議会 会長	鳥海 修一 氏
緑区区民会議 会長	長谷川 淨意 氏

**議題及び公開又は非公開**：（議題）緑区の将来像改定素案のたたき台について  
（公開又は非公開の別）公開

**傍聴者の数**：0人

**審議した内容**：議題のとおり

**問合せ先**：緑区役所 区民生活部 総務課 電話番号 048-712-1123

## 1 開会

## 2 意見交換

(1) 緑区の将来像改定素案たたき台について

各委員より、上記議題について、次のとおり意見及び感想を述べた。

・ポイント5のにぎわいについて(1)見沼田圃とあるが、見沼田圃は一般に知られていない。ミュージアムを設置するなど情報発信ができないか。見沼田圃は緑区の発展のために重要。

・ポイント5の(1)についてだが、にぎわいとあるが、何か足りない。桜については、トイレや休憩所があるともっとよくなる。東浦和駅からの桜並木で地域資源を活用した活性化を考えてはどうか。

・以前、東浦和駅に大きな観光案内板があった。どこの駅でもそうだが、東浦和、美園にも必要ではないか。

・文章はよくできていると思うが、言葉が固い。特にポイント3。さいたまスタジアムがよく知られているので、入れられないか。

・三室地区を代表して出席している。見沼については、地権者や土地改良区の関係者と一般の方々の意識が異なる。自治会連合会については、土地改良区の方々の協力で農産物を住民に提供している。三室では教育センター跡地に防災対応の公園が整備されるので、書き込めないか。

・リサイクルを代表して出席している。ポイント2の「健幸」という言葉はよい。ポイントの3と4が4になったが、リサイクルを推進する立場からすると、リサイクルとかゴミ減量という文言を入れてほしい。不法投棄が多い地域であり、捨てればゴミ、分別すれば資源という意識を浸透させたい。

・見沼は自然の宝庫。交通について国道463号は渋滞が多く、国道17号に抜ける道も未整備で渋滞しがち。子どもの安全については、朝にボランティアが対応している。

・緑区らしく自然が中心でよくまとまった文章となっている。地域資源とあり、見沼田圃を中心にまとめているが、美園には平均年齢の若い街ができつつある。経済的な効果やまちづくりを考えるとときに見沼以外の地区も想定すべき。

・ポイント3と4が4になったが、不満がある。自然と共生したまちづくりはさいたま市の中で緑区が最も適している。全面に出さないと緑区の特徴がつかめない。この点について

は緑区がさいたま市内でリーダーシップを発揮すべき。この点は前回より縮小されている。具体的なイメージが持てるような表現が重要。ポイント 5 についてもより具体性を出すべきでないか。教育とスポーツの入れ方に苦勞しているようだが、スポーツは緑区の特徴なので、ポイント 5 に入れられないか。ポイント 1 の(3)の「子どもの時から」という表現が教育を指しているとのことだが、ポイント 5 とダブっているので整理が必要。子どもの地域に対する「愛着」が必要なので、工夫すべき。安全・安心が強調されているが、それはどこでも当たり前。また、土地区画整理事業についても同様。むしろボランティア活動等を入れられないか。ポイント 2 で子育て世代と若い世代とあるが、若い世代の範囲が分かりづらい。また、ポイント 2 の(2)の対象を介護をする人に絞っているが、むしろ分かりづらい。ポイント 2 の(1)～(4)は 3 つに集約できるのではないか。

・ポイント 1～5 の内容は、現在も行われているもので、今後よいことは続け、時代に応じて変更していくものと理解。まちづくりとよく言うが、寺社からまち、工場からまち、そして近年では駅からまちができるのであって、もうまちは出来上がっている。むしろ、課題は地域をどうするかということ。見沼では耕作農家とそれ以外の方の意見が異なる。農家は後継者がいないと農業は続けられない。もちろん地産地消もできない。見沼の人々から見ると農作業の円滑化の観点から他の人には入ってきてもらいたくない。農業を優先した方が結果として農業を残せる。発展をさせずに自然を残すことが重要。

・総合振興計画は、市の各分野の計画の大元と理解。「ホテル舞い・風かおる緑の街」といった将来像の文章はとてもよく分かる。しかし、人が活性化しないと自然は活性化しない。住む人々がともに支え合う意識が醸成されて、夢と希望が持てる、住みやすいまちづくりが重要。そこに見沼田圃をどう活かすかということだと思う。40 年前ホテルはいたがその後用水ができたことでいなくなった。農業と自然の関係でさえ難しい。社会参加として自分ができることをすることが重要と考えている。

・資料はよくまとまっている。特にポイント 2 のまとめ方はよい。ただし、共働き世帯の子どもについて学童の拠点等が必要。最近子ども食堂も指摘されることがある。

・前回の議論がよく反映されている。2 点質問がある。1 つ目は、全体的に「まち」がひらがなで一部漢字だが、意図はあるか。2 つ目は「防災意識の高揚」の高揚という言葉であるが、醸成という言葉も使われており高揚はどのような意図で使われているのか。

市

・「町」「街」という漢字はあるが、一般的にはひらがなの「まち」が使用されるものと認識している。将来像の中の「発達した街」という表現をしているが、ここでは初出経緯を踏まえて「街」を使用している。「高揚」については、まだまだ高めていくという趣旨であるが、用語の統一については検討する。

・次期総合振興計画は今後の大きな方向性を決めるものと理解している。ポイント2に「健康」という言葉があるが、区民にも分かりやすいように対応すべき。ポイント5の見沼田圃が強調されているが、埼玉スタジアムや文化財も記入してはどうか。

・冒頭に駅前の観光掲示板という話があった。この内容は、計画としてはよいが、アクションプログラムへ移行すると予算の制約がでてくる。予算の制約がかからず、できるものから実行していくことが重要だと思う。

### **3 閉会**